

鷲見城址整備作業報告

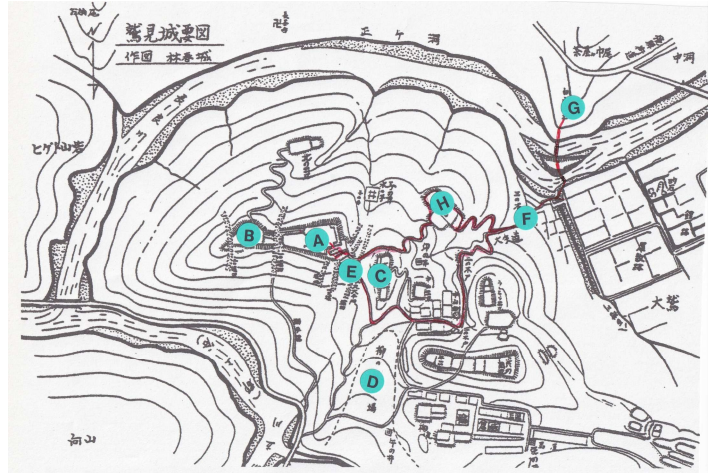
10 月 27 日（土）、鷲見城址整備のため「たかす文化財保護協会」が右図の鷲見城址の大手口（F 地点）に集合して、鷲見城址の大手道の倒木や倒れている標柱の修繕整備などを行った。この日は晴れて、絶好の作業日よりであった。

参加者は、水上精榮、山下直樹、平井道則、下牧康成、上村真司の五人の会員であった。五氏は手袋にスコップや鎌、鋸及び鉋を腰に付け作業にあたった。

承久の乱において、鷲見氏は美濃国の守護土岐氏に従い幕府方に属し、鷲見郷の地頭職を安堵されている（本補地頭）。その時築城されたのが鷲見城である。鷲見城は海拔 645 m、麓の向鷲見平地から 95 m の山頂にあって北側が長良川、西側には切立川、東側には八百層谷川と三方に谷をめぐらし、東方の山脈は飛騨の山々に連なり、東南には鷲が岳（1672m）が聳える天然の要害である。麓から山の東北面を通って頂上に達する道が今でも整備されて残っており、これが大手道となっている。頂上の平地には一の曲輪と二の曲輪があり、東西に土塁や一の堀と二の堀という空堀および石垣の跡がある。一の曲輪の東にある峰には眺望が最もよく、南北に長い東の曲輪があり、主郭防備とともに指揮監視台となっていた（H 地点）。



より倒壊してしまった。文化財保護協会では大鷲地区を一望できる従来の展望台跡に新しく展望台を再建し、倒れている大手道や本丸跡、西の丸跡、東丸跡等の標柱を立て直す整備をした。本協会は鷲見城址など文化財を利活用する方策を研究している。



鷲見城址図（林春樹氏作図、馬淵加筆）



鷲見城址は昭和 31 年 9 月 29 日に高鷲村指定の史跡となり、平成 16 年の合併により郡上市が誕生してからは郡上市指定史跡の文化財となった。指定を受けると文化財保護法が適応され、郡上市文化財保護条例には、次のように書いてある。「記念物に関しその現状を変更し、またその保存に影響を及ぼす行為をしようとする者は、許可を受けなければならない。ただし、現状変更については教育委員会規則で定める場合、保存に影響を及ぼす行為については影響が軽微である場合は、この限りではない」。この事を受けて昭和 56 年に矢場跡に展望台が作られたが、平成になって風雪に

山川弘至記念館見学訪問

山川弘至氏は、日本の伝統・文化を心から愛した詩人、国学者である。折口信夫の門下生となり、早くから業績を積み重ね将来を嘱望されていたが、第二次世界大戦に於いて召集令状を受けると、日本を愛する志を持って従軍した。

軍人としての勤めを果たしながら文学への思いはやむことなく、陣中より多くの作品を生み出した。惜しくも終戦の四日前、台湾の屏東で戦死した。

弘至の没後 60 年の平成 16 年を、弘至の文学への志と日本を愛する心を受け継ぎ、世に伝えることに生涯を捧げてきた妻、京子さんと弟清至氏、妹敏子さん、充夫夫妻によりこの記念館が開かれた。



山川弘至記念館別館



山川弘至記念館本館

平成 18 年には、山川弘至記念館の別館が開館し、展示物内容の充実が図られました。

主な展示資料は、山川弘至の詩歌稿他論文・書籍多数。折口信夫、中河与一、保田與重郎、中谷孝雄、浅野晃、金田一京助、松本清張など各氏の弔詞・色紙・原稿など。戦前の文壇名士の葉書・書簡など。日本浪漫派の歌人、詩人、作家に関する資料。棟方志功氏の版画多数。



山川邸裏にある二人の歌碑

弘至氏の亡き後、妻京子さんは夫の意志を受け、文学の道を志します。戦後、弘至の母校國學院大學に入り、折口信夫氏に師事。昭和 29 年成城学園高校の教職に就きつつ、短歌結社「桃の会」を創立した。雑誌『桃』は弘至氏の著書の装幀をした棟方志功氏が表紙や挿絵を描き、多くの歌人が随筆を寄せている。右の写真は山川邸の横にある弘至氏の歌「うらうらとこぶし花咲くふるさとのかの背戸山にあそぶすべもがも」（昭和 33 年建立）と近年亡くなられた京子さんの唄「山

ふかくながるる水のつきぬよりなほとこしへのねがひありけり」（平成 25 年建立）が仲良く寄り添うように建っている。

参加者は 10 月 6 日（月）9 時に高鷺振興事務所前に集合し、切立明野の山川弘至記念館を見学した後、最近出来た真観寺寺カフェで懇談・反省会を行った。なお寺カフェは、無住になったお寺の利活用で、切立地区にはカフェがないため地域の人達がボランティアで土・日・月曜日の 3 日間カフェを開いている。寺院の新しい活用として注目されている。

なお、参加者は 16 名で、2 グループに分けて見学しました。皆さんお疲れ様でした。



真観寺カフェで反省会をする会員